演劇ネットワークぱちぱち
ANNUAL REPORT 2021
活動報告

主催：公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団

運営：一般社団法人あそぼ

演劇ネットワークぱちぱちとは？

18歳〜25歳が中心となり、演劇をキーワードとして仲間を見つけて、
企画に参加したり、自分で企画を立てたりするとっても自由な場です。

ぱちぱちの事業報告会 「ぱちぱち A GOGO!!」にて撮影

○ぱちぱちの役割、目指すこと

・自分にとっての「演劇との関わり方」を実験する場として、演劇ネットワークぱちぱちはあります。

・様々な「演劇との関わり方」を、演劇ネットワークぱちぱちでは探究し、発信します。

・異なる背景や価値観をもつ人たちが、居心地よく過ごす場、コミュニケーションをとれる場を目指します。

○大切にしていること

（1）強制しないこと。選べること。
（2）否定しないこと。他者を尊重すること。
（3）失敗してよいこと。挑戦すること。
（4）人を困らせるようなことをしないこと。
　　したら謝ること。可能な限り許すこと。
（5）公平であること。
（6）不測の事態が起きた時には、協力して解決すること。

DATA（2022年2月時点）

2021年5月　試験運用開始
2021年9月　本稼働

運営チーム　4名
メンバー　33名 (18歳から25歳)

2021年5月から2022年2月までの10カ月間で
実施したイベント数は139回。延べ380人が参加。

2〜3日に1回は「演劇」をキーワードとした
イベントを実施したことになる。

むかしむかし、あるお家に（公演）

2021年12月19日（日）
いちょうホール
（小ホール）

むかしばなしを題材に、鳥公園の演出家・劇作家、西尾佳織氏を講師に迎えた劇作ワークショップを経て、演劇ネットワークぱちぱちのディレクター中込遊里による演出の元、6名のぱちぱちメンバーが参加した。親子向けの公演と銘打った初めてのホール公演は、盛況の中で幕をおろした。

八王子ユースシアター2021：クロッシング 参加作品
作：西尾佳織とワークショップに参加したみんな
演出：中込遊里
企画・制作：演劇ネットワーク ぱちぱち

きょうげんあそび
(公演)

立川市内保育園からの依頼によりはじまり、口コミで広がりを見せている『きょうげんあそび』。子供たちによる熱烈な歓迎を受け、先生たち にも好評だったことから、ぱちぱちの中でも 力を入れているコンテンツの1つとなってい る。今後も、様々な場所で上演していくことが目標。

伝統芸能である狂言の名作を下敷きに、子供たちが楽しめるような様々な仕掛けがコンパクトに織り込まれている。演劇と教育の関連に興味を持つぱちぱちメンバーが主体的に公演制作を行っており、より多くの子供たちに豊かな観劇体験を届けるべく意欲的な活動を続けている。

2021年10月29日（金）
立川市内保育園

2022年3月2日（水）
練馬区内幼稚園

ぱちぱちのわーわー（イベント）

ぱちぱち初のオープンイベントとして、2021年11月23日（火・祝）に実施。メンバーがそれぞれ特技を活かしながら決めた内容を基に、当日集まった大人も子供も一緒になり、演劇で大いに遊んだ。

静岡県舞台芸術センター SPAC『桜の園』観劇ツアー

優れた劇場の優れた舞台芸術に触れることを主目的とし、ぱちぱち初の「観劇ツアー」として、メンバーから希望者を募った。参加者の多くにとって、はじめて訪れる静岡県舞台芸術センターとなった。後日、主演の鈴木陽代さんと制作の計見葵さんに、オンラインインタビューをさせていただき、レポートとしてまとめ、公開した。

のタクシーではおしゃべりなおばさま運転してもらいました。私たちが東京

客だとわかると「静岡芸術劇場と富士山を入れて写真を取りなね」と教えてくれました

ん？

宮城 聡さん…？が、
宮城 聡さんが、迎

単純に驚きました。
ださる劇場はあま
観客をしっかり迎
安心感といいます
と上がります。入り
る！ということから
じます。
ここまで本気だぞ、
という熱が伝わって

REPORT

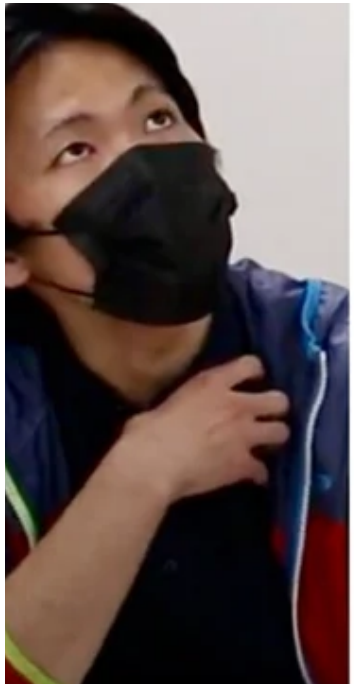
ロビーをうろうろしながら時間を潰して、プレトークを聞く。農奴解放令は日本で言う農地改革、なるほど。そして桜の園は悲劇なのか、喜劇なのか。チェーホフは喜劇のつもりで書いたけど、さあ今回の演出はいかに…って感じで終わる。

神西さん訳の「桜の園」が、高校で買わされて読んでないまま家にあったので読んだ。その時には喜劇的な要素が強いと思った。そしてラネーフスカヤのとんちんかんな様子に腹が立った。

月刊アフタートーク（メディア）

ぱちぱち広報チームが中心となり、その月観たお芝居、翌月観るお芝居について仲間たちと熱く語り合う、演劇愛に溢れた実験的なコンテンツ。

日々試行錯誤を繰り返しながら、着実に内容を改善し、ファンを獲得しており、ぱちぱちの存在を知ってもらうきっかけの一つとなっている。



ヌトミック『ほんやりブルー

東日本大震災を扱いつつ、「人と人との「距
感」」。「「気持ち」は相手に伝わらないけれども、「もしもし」と
「音」は空気を伝わってリアルにその人に届いている。その「音の響き」か
私たちがどういるのか」っていうことを確かめようという作品。」

観念的じゃないんですよね。「今聞こえている音に意識
る俳優のリアルな身体の状態が、フィクション、筋書きとしてのお話を立ち
く。だから内省的な演技は全然感じられない。」

ここは流れていく途中の場所なんだ。「美術は、
天井に網みたいに張り巡らされているところに、猫じゃらしがたくさん吊ら
床に石があったりとか、河原、「ここは流れていく途中の場所なんだ。」っ
受ける舞台美術でした。」

「祈り」にも近いものを感じました。「「言葉」
のコミュニケーションはどうしても隔たるけど、「音」の物理的な響きとい

ロロ『Every Body feat.
フランケンシュタイン』

誰かから誰かへの「愛」。「主人公の
ライカは家族、特に母親に対して。母親が病弱で途中で
死んでしまう。そういうレクイエム的な意味合い。

道徳から乖離してることに対して
も、すごく「愛」。「ひょんなことで出逢
う2人を引き裂く出来事があるけど、引き裂いた張本人
的には良いことしてると思ってるんだよね。道徳から乖
離してることに対しても、すごく「愛」としてやってた
し。っていう事はみんなそれぞれの形で「愛」を表現し
てるんだと思ったら、自分てどんな方法で表現できるん
だろうって思っちゃった。」

群像劇だった。「2つの話が進行し、最後に1
つになる。時間が行ったり来たりし、いろんな人たちの
いろんな空間での話もする群像劇。」（以上、ゆ）

YOUTUBE

2021年度に実施したコンテンツ (全37種)

きょうげんあそび／むかしむかし、あるお家に／月刊アフタートーク／ぱちぱちのわーわー／静岡県舞台芸術センター SPAC『桜の園』観劇ツアー／2025年秋の二人芝居10都市ツアーの支度／YOUTUBE動画編集と雑談／【オンラインに変更】ピラティス×座禅／ワークショップレポート／箱(など）を作ろう！／『「ひとり」を味わうワークショップ』／『芸術文化観光専門職大学ってどんなところ？』／ぱちぱち A GOGO!!／ぱちぱちのオンライン説明会／コンテンツ検証フェスティバル／スパイゲームをしてみよう／ミズキくんWSのレポートをする練習の会／ロゴデザインの会／一人で書かない戯曲創作ワークショップ／八王子ユースシアター参加団体による感想会＆懇談会／団体名審査会／広報ミーティング／広報の作業会／新クトゥルフ神話TRPG「転校生はニャルラトホテプ！」で遊ぶ会／河野さんお話し会／演劇で遊ぶYOUTUBE撮影会／演劇基礎訓練&オリジナルダンス創作／発信・広報MTG／発信力を磨こう！動画コンテンツの作り方講座／立ち上げメンバーグループミーティング／観劇コンシェルジュミーティング／読み合わセッション！／車人形ワークショップ／（対面）「呼吸」勉強会／劇評WS 「ザ・空気 VER3」／ぱちぱち稽古会

DIRECTER MESSAGE

演劇は必要なのだろうか？とずっと考え続けています。
平成28年度の内閣府による世論調査の「この1年間に文化芸術を劇場などで直接鑑賞したことがあるか」*1 への回答では、40.6%が「鑑賞したことはない」そうです。（演劇だけではなく美術や映画など文化芸術全般。演劇に限るともっと低いはず。）

「なぜ鑑賞したことがないのか」への回答では「時間がなかなか取れないから」が46.1%と最も高く、続いて「関心がないから」が28%だそうです。
「時間が取れない」と言われると「そうだよなあ、みんな忙しいからなあ…」と納得してしまいそうですが、つまりは限られた24時間のうちでの「文化芸術の優先順位が低い」ということでしょう。

演劇に長年携わる者としては「優先順位が低い」ことは残念ではありますが、いきなり状況を変えられるかというと、現実的に考えてとても難しいでしょう。けれど、この頃起こりがちな「優先順位が低い」ことを「切り捨ててよい」と捉える風潮は変える必要があると強く思います。

たしかに、現在の飢えを凌ぐには演劇ではなくて栄養ある食事が一番効果的かもしれません。しかし、芸術のような人の心を形作るがゆえ効果が目に見えてわかりにくいもの＝無駄/贅沢に見えるものは、他人と関わりながら生きる人類の知恵の源となり、未来を創るエネルギーになります。とくに、身体ひとつが出発点となる演劇は、誰もが気軽に体験できるという点で優れています。

だから、「演劇ネットワークぱちぱち」では、未来を創っていく若者たちが演劇をキーワードとして生み出したアイディアを形にし続けます。その中には、今すぐに答えの出ないものも多くあります。しかし、今はわからないけれど、ずっと先に繋がる大発見のはじめの一歩かもしれません。未来を創造する無限の可能性を生み出す場が「演劇ネットワークぱちぱち」です。ゆっくり、たっぷりと育てていきます。

＊1　https://survey.gov-online.go.jp/h28/h28-bunka/2-1.html

中込 遊里（なかごめ ゆうり）／演出家
鮭スペアレ代表／一般社団法人あそぼ代表

PROFIELE
1985年、東京都日野市生まれ。都立八王子東高校出身。日本大学芸術学部演劇学科在籍中に「鮭スペアレ」旗揚げ。劇作・俳優・演出を経て、2014年より演出に専念。2013年・2014年利賀演劇人コンクール「奨励賞」受賞。2016年～2021年、拠点とする立川市を中心に地域の中高生と演劇創作を行う「たちかわシェイクスピアプロジェクト」を主宰。2019年、2020年「八王子学生演劇祭」総合ディレクターを経て、2021年より「演劇ネットワーク ぱちぱち」ディレクター。その場に集う人々の力をどこまでも信じることから作品を編み出すことをモットーとする。

INFO

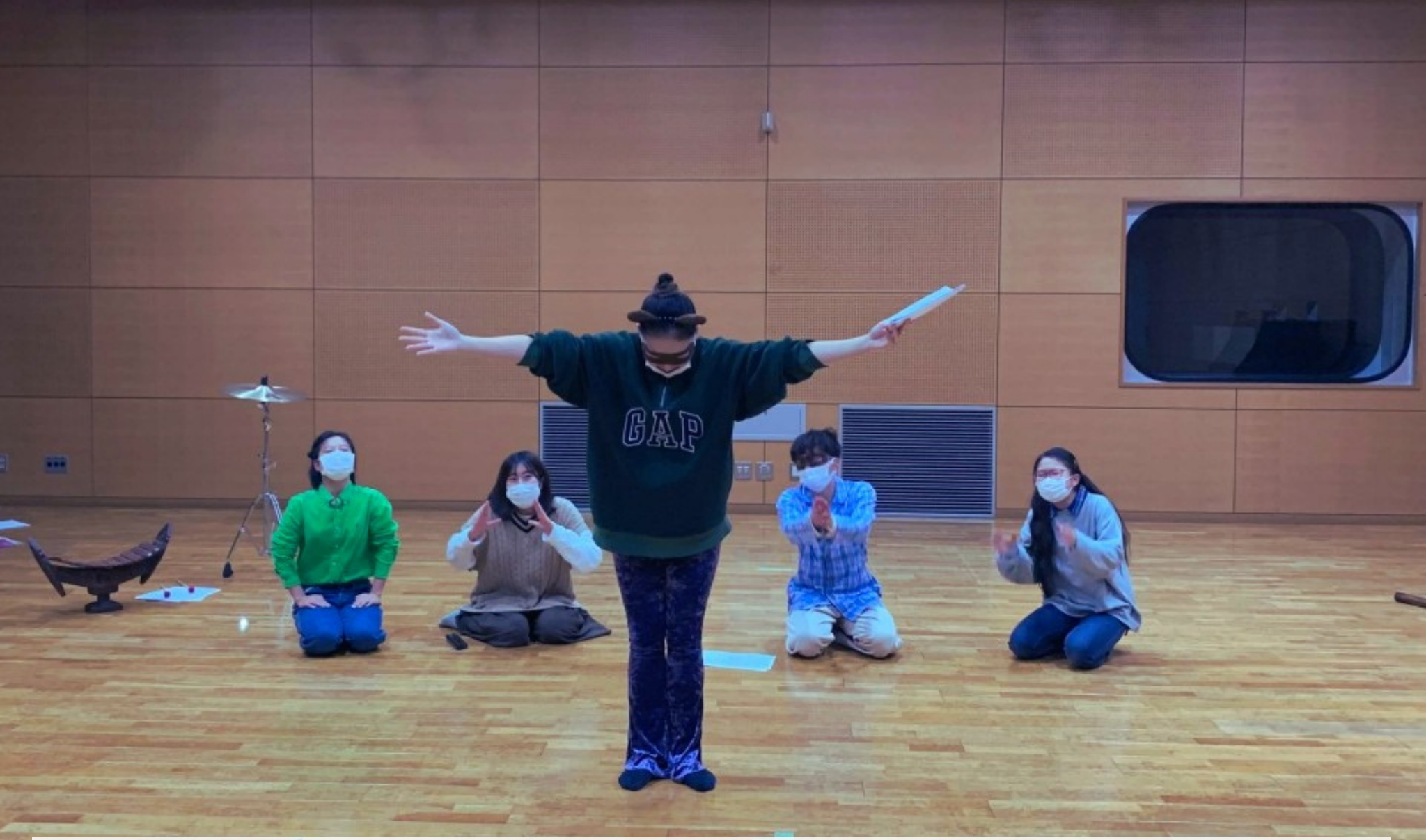
HOMEPAGE
HTTPS://HACHIOJIBUNKA.OR.JP/PLAY/NET88

NOTE
HTTPS://NOTE.COM/ENGEKI_8888

TWITTER（@TN_PACHIPACHI）
HTTPS://TWITTER.COM/TN_PACHIPACHI

INSTAGRAM（@NETWORK.PACHIPACHI）
HTTPS://Z-P15.WWW.INSTAGRAM.COM/
NETWORK.PACHIPACHI/?HL=JA

OFFICIAL LINE
HTTPS://LIN.EE/UURRW2MJ



お問合せ・公演やWSのご依頼・ご支援のお申し出等ありましたら、下記までご連絡ください。

公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団
芸術文化振興課 演劇事業担当 荻山（おぎやま）
TEL 042-621-3005（9:00～17:00）Mail geishin78@hachiojibunka.co.jp